

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

岩瀬の講義は、指定した教科書に基づいて実施し、レポート課題も教科書の範囲に限定する。よって、教科書をよく読んで講義を受けること。泉、田村の講義については、別途指示する。講義は、遠隔講義とレポート課題に置換した指導にて行う。

《担当者名》○岩瀬義昭 泉唯史 田村至

【概 要】

リハビリテーションの概念と定義、障害者処遇の歴史、障害・障害者と国際基準、障害者心理、リハビリテーションの4つの側面とわが国の障害者施策（障害者基本法、障害者総合支援法など）について学ぶ。またリハビリテーションのコアとなる理学療法、作業療法、言語聴覚療法のそれぞれの概要および医療チームにおける役割と連携について学ぶ。この学びを通ることにより、以後学習する科目への準備状況を整える。

【学習目標】

将来従事する職種に必要な知識や技術を習得することを促すために、リハビリテーションを理解する。

1. リハビリテーションの概念を説明することができる。
2. リハビリテーションの定義を説明することができる。
3. 障害者に対する処遇の歴史を説明することができる。
4. 障害・障害者と国際基準を説明することができる。
5. 障害者心理を説明することができる。
6. リハビリテーションの4つの側面を説明することができる。
7. わが国の障害者施策（障害者基本法、障害者総合支援法など）を説明することができる。
8. 作業療法の対象領域（疾病や障害）に対する作業療法の理念を説明することができる。
9. 疾病と障害の構造およびそれに対する理学療法の概略について説明することができる。
10. 言語聴覚療法領域のリハビリテーションの概要及びチーム医療における言語聴覚士の役割について説明することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	理念、組織	リハビリテーションの概念や定義に関する歴史的な変遷とその背景	岩瀬義昭
2	組織、エトス （課題提出）	リハビリテーションの範囲やその考えかた レポート課題に置換する	岩瀬義昭
3	障害のとらえかた	ICDからICIDH、ICFへ、変遷と時代背景	岩瀬義昭
4	権利尊重 （課題提出）	人権の考えかた レポート課題に置換する	岩瀬義昭
5	リハビリテーション医学の歴史、特質	リハビリテーションに関する国内外の歴史と現代の課題	岩瀬義昭
6	リハビリテーションの実際 （課題提出）	各領域のリハビリテーションとその課題 レポート課題に置換する	岩瀬義昭
7	障害予防と介護予防	予防の3段階、社会制度・構造	岩瀬義昭
8	社会的リハビリテーション （課題提出）	社会的リハビリテーションの概念、自立支援 レポート課題に置換する	岩瀬義昭
9	リハビリテーションと理学療法（症候学的観点から）	症候学的観点からのリハビリテーションと理学療法	泉唯史
10	リハビリテーションと理学療法（障害学的観点から）	障害学的視点からのリハビリテーション医療における理学療法	泉唯史
11	医学的リハビリテーション	医学的リハビリテーションの主要目的と理学療法の役割	泉唯史

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		割	
12	リハビリテーションと作業療法（１）	リハビリテーション医療における作業療法（士）の役割	岩瀬義昭
13	リハビリテーションと作業療法（２）	国際生活機能分類と作業療法	岩瀬義昭
14	リハビリテーションと言語聴覚療法（１）	言語聴覚領域のリハビリテーション	田村至
15	リハビリテーションと言語聴覚療法（２）	失語症のリハビリテーション	田村至

【評価方法】

作業療法領域（岩瀬担当分）課題レポート（100％）

理学療法領域（泉担当分）期末レポート100％

言語聴覚領域（田村担当分）期末レポート100％

【備 考】

教科書：上田 敏 他 編 「標準リハビリテーション医学 第3版」 医学書院 2012年

参考書：中村隆一 他 編 「入門リハビリテーション概論」 医歯薬出版 2013年

上田 敏 「リハビリテーションを考える-障害者の全人間的復権-」 青木書店 1983年

松井亮輔・川島聡 他 編 「概説 障害者権利条約」 法律文化社 2010年

千野直一 他 編 「現代リハビリテーション医学」 金原出版 2009年

日本職業リハビリテーション学会 編 「職業リハビリテーションの基礎と実践」 中央法規 2012年

その他、必要があれば講義の中で紹介する。

【学習の準備】

予習では、教科書のテーマの内容に関する部分と参考書を読んでおくこと（80分）。

用語の読みや意味を調べ、課題レポートに取り組むこと（80分）。

復習では、教科書と講義で配布された資料を整理すること（80分）。

自己のノートを整理し、必要な情報を検索すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

泉唯史（理学療法士）

岩瀬義昭（作業療法士、日本作業療法士協会および日本リハビリテーション医学会所属）

田村至（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、理学療法部門のリハビリテーションについて講義を行う。

医療機関での臨床経験および日本リハビリテーション医学会での活動経験を活かし、1～8回目の講義と作業療法部門のリハビリテーションについて講義を行う。

医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚部門のリハビリテーションについて講義を行う。